

北海道バプテスト連合 第2次支援報告  
北海道連合東北関東大震災支援対策室 室長  
北海道バプテスト連合会長 全皓燮（平岸教会牧師）

韓国の教会から東日本大震災被災者のために用いてくださいという祈りと義援金を受け、北海道連合としては青森・盛岡の諸教会への第2次支援を行うことになりました。支援の内容については支援対策室などで話し合った結果、以下のようになりました。

□ 支援の目的

- この時点で既に緊急性の高い物資の支援は必要性が低下しつつあったこともあり、支援物資は主として青森・盛岡の諸教会で働きを担っておられる牧師への支援とする。
- 今回の震災に対する支援は、すでに短期的な支援の時期をすぎ、中長期的な支援体制を構築する時期に来ている。そこで北海道バプテスト連合として、今後の支援のあり方を検討するために、直接に現地を訪れて話を聞き、支援のあり方を模索することを目的とする。

□ 日程および行程

事前に情報収集をかねて青森・盛岡の教会へ連絡。また支援物資の買出しを行う。

4月11日（月）24：00 苫小牧港をフェリーにて出発。

4月12日（火）09：15 青森港着。直後に青森教会を訪問し、高速道路を使用し盛岡教会へ盛岡教会より東進し宮古へ。宮古から北上しつつ沿岸の様子を視察しつつ、日本バプテスト同盟久慈教会を訪問。その後、八戸泊。

4月13日（水）鮫教会、八戸教会、小松ヶ丘伝道所、三沢教会、カルバリーバプテスト教会を訪問後、青森港へ（22：00 出港）

4月14日（木）07：00 苫小牧港着。

□ メンバー

この第2次支援をもって臨時的に設けた支援対策室を解散して継続的な活動を行う委員会を構成する準備に入ることになりました。そこで、新設される委員会に関わる人材を求め、札幌新生教会の田中信矢牧師と苫小牧伝道所の田代仁牧師が同行し、あわせて3名で行動することになりました。

□ 支援物資

お米（無洗米）、約5kgの加工肉（ベーコン）、お菓子や洗剤・電池などを詰め合わせた段ボール箱を用意しました。

また、メールを用いて随時発信される報告は帯広教会の西島兄が連合内緒教会宛にメール配信、またブログへの掲示を行い、さらに余震などの情報チェックを函館美原教会の福田牧師が担ってくださいました。何より、この支援を行うにあたって、多くの方の祈りがあったことを感謝します。そして、この第2次支援の中で青森・盛岡の諸教会の牧師や信徒、そして被災者の方との出会いを感謝します。

今も現地で支援の働きを担い、あるいは被災しながらもそこから立ち上がりつつある皆さんの歩みの上に慈愛の主の豊かな恵みがありますようにお祈りします。

第2次支援の中で...

(以下、随時メールにて発信した経過報告と未発信の報告を再編集し掲載します)

4月11日(月) 22:00 苫小牧西港にて乗船待ち。札幌新生教会が車両(トヨタ「ノア」)を提供して下さったが、今回の支援物資で車は一杯。後部席にはかろうじて人が一人か二人乗車するのが精一杯の状態。

同 23:00 乗船開始。2等船室は意外と空いていた。明日の行程を確認しつつ早めに寝袋で就寝。

4月12日(火) 10:20 フェリーの到着する岸壁が臨時のターミナルであるため、着岸が遅れる。到着後、早速青森教会へ。

同 10:50 青森教会にて佐々木先生ご夫妻とお話し、一緒にお祈りをする。青森教会では陸前高田への支援を行っており、その時の様子などを聞かせて頂いた。その後、佐々木先生ご夫妻の見送りを受けつつ盛岡教会へ出発。

同 11:13 盛岡へ向かう車中にて話し合いの結果、予定を変更。盛岡教会訪問後、釜石方面へ向かうことに。同盟の久慈教会は明日午前中に訪問することに。久慈教会へ連絡し、了解を得る。

同 13:25 盛岡教会到着し大須賀先生ご夫妻にお会いしました。盛岡教会では現在、教会に来ている子どもの親戚が被災しており、支援を行っているとのこと。今後はプロジェクトチームを立ち上げ、陸前高田、大船渡、大槌などに支援を展開していく予定とのこと。前回の支援物資もほぼ被災者に手渡ししながらお渡しできた。感謝です。とのことでした。今後の協力関係を模索していきたい旨をお話しました。

同 13:51 大須賀先生のリクエストを受けて「寝具るぱっく」(ニトリの布団セット)を3セット購入、お渡ししました。全ての家財を失った方にとって「自分の布団」というだけでも、明日への希望となるのだ、ということでした。これから釜石方面へ向かいます。

同 17:30 釜石にて...

町は瓦礫にうめつくされ、辛うじて道路だけが通れる状態です。その道路ぎわぎりぎりまで瓦礫が、人の背丈より高く積もっているのが車の窓から見えるかぎり続きます。その中には原形を留めていない車があり、そのドアには丸印とバツ印が記されていました。よく見れば、車ばかりではなく、破壊された家の壁にもいろいろな記号が記されています。そんな釜石の町の高台に上がると、ある高さから建物の被害が急になくなります。そこから釜石の町を見下ろすと、陸地に大きな輸送船が打ち上げられ、出来たばかりの世界一の防波堤の、そのケーソンを運んでいた栈橋も破壊され打ち上げられていました。その高台にたつマンションの住人の方に話を聞くと、その方の知り合いだけで60人が亡くなったとのこと。そして眼下の瓦礫となった町の中、車の沈んでいる川底にはまだまだ人が沈んでるんだと、冷静に語って下さいました。

被災地の一枚の写真の中には、一ヶ月前に失われた日常生活と、あるいは今もその瓦礫の下に眠る遺体があるという現実をまざまざと教えられました。

同 18:00 大槌町 浪板にて...

釜石から宮古にむかう途中、浪板にてSさん(60歳台?)からお話しを聞く機会がありました。少しばかり高台にあるお住まいのSさんは民宿を営んでおられました。その民宿は一階の襖の高さまで津波が来たのだと話して下さいました。

地震が起きたとき、500mほど上流にある公民館に避難したが、家も鉄塔も破壊され流されていく様子に、頭が真っ白になった。消防団の息子さん(30)が避難を呼び掛けてくれなかったら、自分もその津波を自宅で見ていたかも知れない。息子さんたち消防団は消防車で避難を呼び掛けて走り回り、そのまま津波に飲み込まれたのだそうです。Sさんはそんなことを話して下さいました。そのSさんが指差す先、民宿から見下ろす松林の影に、その消防車が津波に破壊され横たわっていました。

同 18:54 ただいま宮古です。田中先生がお知り合いのお宅を訪問中です。もう周囲は真っ暗なので、これから八戸に向かいます。

同 22:32 無事に八戸のホテルに到着しました。サポートとお祈りありがとうございます。明日は8時45分頃に久慈に向けて出発を予定しています。

4月12日(火)09:00 日本バプテスト同盟 久慈教会に向けて出発

同 11:00 久慈教会にて...

日本バプテスト同盟の久慈教会を訪問しました。久慈教会はアレン記念教会と名付けられ、高台にあるとても素敵な教会です。牧師の矢幅先生はご事情で平日はおられず、藤森兄が対応して下さいました。藤森兄にとって久慈教会を拓いたアレン先生は、幼稚園の頃から教えをうけ、自分の人生に大きな影響を与えた先生であったそうです。アレン先生は1915年にアメリカより来日し、当初は仙台で基督教教育に携わっておられましたが、盛岡での働きに使命を感じ、盛岡の地で基督教教育に携わろうとされました。しかし東北の冷害凶作と三陸大津波で多くの方が亡くなった時に、釜石から久慈にかけて人々の救いのために働く召しを受けたのだそうです。

小数の信徒と共に人々の迫害に耐えながら、伝道し久慈に移りすむようになった頃、日米が開戦し帰国を余儀なくされます。戦後再び日本を訪れると、人々は希望を失い、生きるだけでいっぱいだったけど、アレン先生の「帰郷」を喜んでくれたのだそうです。その後アレン先生は幼稚園、日曜学校、小学校、中学校や短大、あるいは日赤と協力しての無料診療などの働きにも尽力されました。そのため、1959年には久慈市名誉市民となったほどです。他にも勲章も2回ほど受勲されたそうです。そして来日60年目の1976年に85年の生涯を閉じられました。そして今、久慈教会はそのアレン宣教師を記念する教会として久慈市を見渡す小高い場所に建っています。

その歴史を振り返れば、大災害をきっかけとしてアレン宣教師の働きを通して建てられた教会ですが、教会の群れは小さく、高齢化が進み、思いがあっても具体的な働きにはなかなか結び付けられないと藤森兄は話しておられました。

それは私たち連盟、連合の諸教会でも同じ思いの方もたくさんいらっしゃるのではないかと。一人では出来ないこと、一つの教会では出来ないこと、同時に大きな組織では見落とされること。

そこに私たちの示される働きがあるのではないかと考えさせられました。

同 11:40 藤森兄に付近の被災地などを案内してもらいました。その後、久慈教会の関係者で、津波に首まで使ったけれども助かったというキムさんのためのお米を一袋さしあげたいと、藤森兄にたくし、再び八戸に向かって出発しました。

同 14:00 午後からはまず、鮫教会を訪問しました。鮫教会は市街地の少し高いところにあり、また岩盤が固いため教会の建物には被害らしい被害はなかったそうです。また教会員にも怪我人もなく皆さん無事でしたが、職場が被害を受けられた方もおられるとのこと。以前のチリ沖地震の経験もある青森の皆さんは、多くの方が地震直後に津波からの避難をはじめたため、人的被害は比較的少なかったそうです。それでも港近くに大きないか釣り漁船が横倒しに何隻か打ち上げられ、付近の建物には津波の被害のあとが数多く見られました。また震災当日は停電のため情報が入らず、何が起きているのか、全くわからなかったそうです。

同 15:00 鮫教会の林先生のご案内で八戸教会を訪問し、そこで甲谷先生とお話できました。八戸教会は小高い場所にありました。しかし地盤が弱いため、大きな地震の度に土地の一部が崩れるのではないかと心配になるそうです。また建物も強い風が吹くと少し揺れを感じます。会堂が鉄骨であるのにたいして他の部分が木造であるため地震の時の揺れ方が異なり、そのためにその緩衝部分が損傷するなどの被害もあるとのこと。教会員には被害はないが、実家が被災して80台のおばあちゃんが教会員宅に転居してこられたのだそうです。

同 16:00 小松ヶ丘伝道所の堀米先生ご夫妻とお話できました。会堂及び教会員には被害らしい被害はないが、堀米先生が以前に伝道した集落の被災がひどかった、とのこと。春の音楽集会ではカルバリー教会を会場に岸先生を招いてチャリティーコンサートを行い、収益を支援として用いたとのことでした。他にも、災害時の停電に備えて黒電話を用意しておく、停電時でもNTTは独自の電源を持っているので黒電話同士なら通話ができることや、反射式ストーブの有効性、原子力発電の危険性などを紹介してくださいました。

同 17:30 三沢教会にて小向光雄兄とお会いすることができました。福田牧師は眼科の開業医でもあるため平日は小向兄が東京バプテスト神学校で学びつつ教会事務をされているとのことでした。時間も押し迫ってゆっくり交わりの時間を持つことができませんでしたが、少しばかりの情報交換と、一緒にお祈りをすることができました。

同 18:20 三沢教会からさほど距離がないはずなのに、道を間違えて小松ヶ丘伝道所に逆戻り。ようやくカルバリーバプテスト教会に辿り着きました。6:30からの祈禱会直前のおいそがしい時の訪問となりましたが、ジャルバート牧師は気持ちよく迎え入れてくださり、気持ちよく支援を受け取っていただけました。一緒にお祈りをした後、青森へ向けて出発。

同 21:00 苫小牧行きフェリーに乗船。当初は2等船室で予約していたものの、疲労の状態を考慮し、2等寝台へ変更。22:00 出港。

4月14日(木) 07:00 苫小牧西港着。田中牧師は、最初から最後までドライバーの役を完遂。苫小牧伝道所にて荷物を整理後、解散。